



『福到来』 成長の年に!

▼17日間の冬休みが終わり、9日(火)3学期の始業式が行われました。3学期のスタートとなる始業式では、次のような話をしました。

▼本来ですと、「新年あけましておめでとうございます。」と晴れやかに言いたいところですが、皆さんも、ご承知の通り、元日の午後、最大震度7を観測した能登半島地震が発生し、元日の祝賀ムードを一機に吹き飛ばしました。▼この地震で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、家屋の倒壊や大規模火災、津波などによって甚大な被害を被った多くの被災者の皆様に、心より、お見舞い申し上げます。▼翌2日には、被災地に水や食料といった支援助資を搬送しようとした海上保安庁の航空機が着陸直後の日航機と衝突し、5名の尊い命が奪われるという悲しい事故が起こりました。しかし、幸いにも、乗客乗員379人全員が脱出し、「奇跡の18分」と称されました。▼これは、「乗客の命を守る」という最大の使命のもとに、様々な事態を想定した厳しい訓練を徹底して実施している客室乗務員の冷静かつ適切な判断によるものであるとされています。また、パニックにならずに、指示に従った乗客の避難態度も賞賛に値します。さらに、機長は前方から一列一列座席をチェックして逃げ遅れがないことを確認してから最後に脱出したそうです。▼これらの教訓は、学校における災害時の対応にも生かさなければならぬことばかりであると改めて強く感じました。▼このように、災いからのスタートとなった2024年ですが、干支は辰年。昇り竜という言葉もある通り、さらなる成長が期待できる年とされています。また4年にわたるコロナ禍が収束し、新たな時代の幕開けとなる活力ある始まりの年にしたいものです。▼本校では、SDGs市川中オリジナル18番目の目標として、「毎日を幸せと思えるように」を設定し、全校生徒で、幸せで笑顔の絶えない楽しい学校を創ろうという思いを共有し、それに向けて着実に歩み出しました。このことから、昨年の本校の漢字には、「幸」を

選びました。▼2024年は「災(禍)からのスタートとなりましたが、「災(禍)」から転じて、「福」が到来する一年となることを願っています。▼学校としても、質の高い授業の実施、生徒・保護者の思いに寄り添った丁寧な指導を日々実践することで、スクールモットー「一人一人が大切にされる学校」を実現したいと考えています。▼生徒の皆さんも、日常の学びと人との関わりを大切に、年度の締めくくりとなる3学期を、毎日が幸せと思える有意義なものにしてください。

▼続いて、各学年、生徒会本部の代表者からも力強い新年の抱負が述べられました。その一部を紹介します。



◆1年代表 内藤陽生さん (梶原璃華さん代読)

この一年様々な成長を遂げてきた。先輩となる今年にはマナーや思いやりといった課題に力を入れたい。

◆2年代表 遠藤凜乃さん

3年生から安心してバトンを渡してもらえるよう、最上級生になるためのレベルアップを図りたい。

◆3年代表 村松明希人さん

みんなで過ごせる残り少ない日々を、課題克服を意識しながら、よりよい学校生活を送りたい。

◆生徒会代表 村松大悟さん

締めくくりの学期である3学期を、勉強・生活面ともに頑張り、来年度につなげたい。

不審者侵入訓練を実施

▼2学期末になりますが、鯉沢警察署の協力を得て、「教師のための防犯教室」を行いました。放課後、突然刃物を持った不審者(警察官)が校舎内に侵入したところを、教職員がサスマタを使って取り押さえる訓練です。▼詳細を職員には伝えずに実施した訓練だけに緊張感をもって行うことができました。

